



## 隅田川ナイトクルーズ

日々の暮らしから東京へ①

吊るし柿用に、皮をとが出来るのだと思ひいたばかりの渋柿を直す。大切なことは、10個ももらった。毎朝、何にも誠実にかか太陽にあて、夕方は軒下に移動し、宝右を扱うが如く大切にされた成果として、夕焼け色を見事な吊るし柿が出来た。

ふと、自分と重ねる。半年近くの体調不良で13\*もやせた。まさに吊るし柿状態である。でも立派な吊るし柿を見てみると、自分もあのように輝きを持つこ

とが出来るのだと思ひいたばかりの渋柿を直す。大切なことは、10個ももらった。毎朝、何にも誠実にかか太陽にあて、夕方は軒下に移動し、宝右を扱うが如く大切にされた成果として、夕焼け色を見事な吊るし柿が出来た。



見事な出来の吊るし柿

川ナイトクルーズ。

まだ勤めていた時、東京での常宿は勝どき橋近くの「東京ビュック」、すぐ近くを隅田川が流れ、なじみ深い。

隅田川は全長23.5\*、水の東部のシンボルだ。ここに架けられた橋の数は、いろいろな数え方があるらしいが、一般的には千住大橋から始まり、勝どき橋までの17。

昔から隅田川河畔は最もにぎわいを見せた所だということ、古代4大文明が大河の河畔に誕生したのと同じである。

千住大橋は隅田川に最初に架けられた大橋で、江戸時代の文禄3年(1594年)のこと。当時はまだ荒川と呼ばれ、そこに長さ120\*、幅7\*の木橋が架けられた。とにかく江戸の玄関口として大行列が行き交い、宿場町として大いに栄えたという。

千住大橋の次に架けられたのは、浮世絵などで馴染みの両国橋。千住大橋から下流に向かって9番目にあたる。もちろん、当時は木橋で、洪水と火災によって何度も架けかえられ、明治37年に鋼橋となり、現在の両国橋は昭和7年に架けられたもので、当時、国内最大であった。

戦後に架けられた佃大橋。そして最も下流の勝どき橋へと続く。今回乗船したナイトクルーズの起点は墨田区役所の音妻橋(千住大橋から下流に向かって5番目に架かる)。そこを出発し、港区芝浦とお台場を結ぶ吊り橋、レインボーブリッジ(正式名は東京湾連絡橋)までを往復するコース。料金は1650円。起点の墨田区役所前「うるおい広場」には勝海舟の像をたたく銅像が建てられていた。勝海舟は今の両国駅近くの両国公園が生誕の地。墨田区は彼の功績を後世に残すために全身像を建てようと呼びかけ、多くの賛同者の寄付で、新しい夜明けを

「隅田川の橋」の表紙(彩流社)

昔から歴史を持つ橋の記録と、懐かしい街角の空までたどり、水の東部の今昔散歩



## 隅田川の橋

戦後に架けられた佃大橋。そして最も下流の勝どき橋へと続く。今回乗船したナイトクルーズの起点は墨田区役所の音妻橋(千住大橋から下流に向かって5番目に架かる)。そこを出発し、港区芝浦とお台場を結ぶ吊り橋、レインボーブリッジ(正式名は東京湾連絡橋)までを往復するコース。料金は1650円。起点の墨田区役所前「うるおい広場」には勝海舟の像をたたく銅像が建てられていた。勝海舟は今の両国駅近くの両国公園が生誕の地。墨田区は彼の功績を後世に残すために全身像を建てようと呼びかけ、多くの賛同者の寄付で、新しい夜明けを

戦後に架けられた佃大橋。そして最も下流の勝どき橋へと続く。今回乗船したナイトクルーズの起点は墨田区役所の音妻橋(千住大橋から下流に向かって5番目に架かる)。そこを出発し、港区芝浦とお台場を結ぶ吊り橋、レインボーブリッジ(正式名は東京湾連絡橋)までを往復するコース。料金は1650円。起点の墨田区役所前「うるおい広場」には勝海舟の像をたたく銅像が建てられていた。勝海舟は今の両国駅近くの両国公園が生誕の地。墨田区は彼の功績を後世に残すために全身像を建てようと呼びかけ、多くの賛同者の寄付で、新しい夜明けを

戦後に架けられた佃大橋。そして最も下流の勝どき橋へと続く。今回乗船したナイトクルーズの起点は墨田区役所の音妻橋(千住大橋から下流に向かって5番目に架かる)。そこを出発し、港区芝浦とお台場を結ぶ吊り橋、レインボーブリッジ(正式名は東京湾連絡橋)までを往復するコース。料金は1650円。起点の墨田区役所前「うるおい広場」には勝海舟の像をたたく銅像が建てられていた。勝海舟は今の両国駅近くの両国公園が生誕の地。墨田区は彼の功績を後世に残すために全身像を建てようと呼びかけ、多くの賛同者の寄付で、新しい夜明けを

戦後に架けられた佃大橋。そして最も下流の勝どき橋へと続く。今回乗船したナイトクルーズの起点は墨田区役所の音妻橋(千住大橋から下流に向かって5番目に架かる)。そこを出発し、港区芝浦とお台場を結ぶ吊り橋、レインボーブリッジ(正式名は東京湾連絡橋)までを往復するコース。料金は1650円。起点の墨田区役所前「うるおい広場」には勝海舟の像をたたく銅像が建てられていた。勝海舟は今の両国駅近くの両国公園が生誕の地。墨田区は彼の功績を後世に残すために全身像を建てようと呼びかけ、多くの賛同者の寄付で、新しい夜明けを

戦後に架けられた佃大橋。そして最も下流の勝どき橋へと続く。今回乗船したナイトクルーズの起点は墨田区役所の音妻橋(千住大橋から下流に向かって5番目に架かる)。そこを出発し、港区芝浦とお台場を結ぶ吊り橋、レインボーブリッジ(正式名は東京湾連絡橋)までを往復するコース。料金は1650円。起点の墨田区役所前「うるおい広場」には勝海舟の像をたたく銅像が建てられていた。勝海舟は今の両国駅近くの両国公園が生誕の地。墨田区は彼の功績を後世に残すために全身像を建てようと呼びかけ、多くの賛同者の寄付で、新しい夜明けを



勝どき橋側のクルーズ船上でレインボーブリッジ側を撮った夕景